

乳がんについて

乳がんは女性がかかるがんで最も多く、日本女性の11-12人に1人が罹患します。自分で見つけれられるがんで、乳がん患者さんの約半数が自分でしこりや分泌物に気づいて受診します。👉

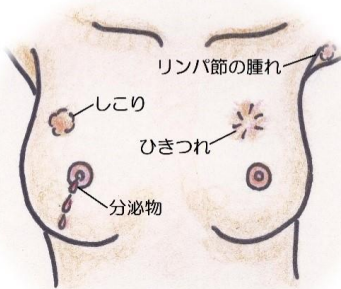
乳がんは発見されたときの進行度により完治できるかが左右されます。大きさが2cm以下と小さく、リンパ節や他の部位に転移がない早期がん(0、I期)では約90%以上の治癒が期待でき、早期診断・早期治療がとても大事です。

乳房は、乳汁を作る小葉と乳汁を運ぶ乳管(あわせて乳腺)、それらを支える脂肪組織からできています。乳がんは、乳管や小葉の細胞ががん化して増殖することによってできる悪性腫瘍です。がん細胞が乳管の中にとどまったものを「非浸潤がん 0期」、がん細胞が乳管の外に広がったものを「浸潤がん I-IV期」といいます。

乳がんが診断されたら全身のCT/PET検査などでわきのリンパ節転移や多臓器転移があるかを検査し、病期診断を行います。👉

乳腺のMRI検査で乳がんのしこりの大きさ、広がり方を検査し、手術の方法を決めます。

乳がんの症状



乳がんの病期診断

T \ N リンパ節転移 しこりの大きさ	N0 転移なし	N1 転移1-3個	N2 転移4-9個	N3 転移10個以上 鎖骨/内胸リンパ節
Tis 非浸潤がん	0	II A	III A	III C
T1 2cm以下	I	II A	III A	III C
T2 2-5cm	II A	II B	III A	III C
T3 5cm以上	II B	III A	III A	III C
T4 皮膚/胸壁浸潤	III B	III B	III B	III C

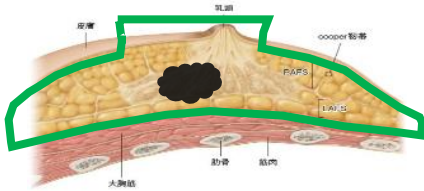
乳がんの治療

乳がん治療の基本は外科治療（手術）です。手術には、乳房を全部切除する「乳房全切除術」と乳房の一部を切除する「乳房部分切除」があります。

術前検査でわきの下のリンパ節に転移がない場合には「センチネルリンパ節生検」を行います。リンパ節に転移がある場合には、リンパ節はすべて切除する「腋窩郭清術」を行います。

全切除術

乳頭を含め全切除する



部分切除術

乳頭を温存し、乳房を部分切除



腫瘍が大きい、乳管内病変、多発

適応

腫瘍が小さい、乳管内病変なし
乳頭から遠い

乳房/乳頭がなくなる 喪失感

乳房

乳房変形

同等

薬物治療

同等

なし ※リンパ節転移陽性はあり

放射線治療

あり

同等

全身再発リスク

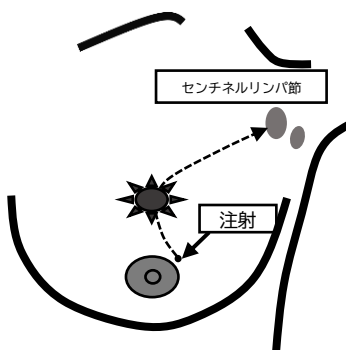
同等

なし

乳房内再発
新規乳癌

あり
※断端陽性→追加切除(全摘含めて)

※再建手術 全切除後、Stage II までは保険適応 自家組織またはインプラント



センチネルリンパ節とは…

乳癌の癌細胞がリンパ流に乗って最初に到達するリンパ節
センチネルリンパ節を特殊な薬剤でうつしだし、術中に転移があるか顕微鏡検査で調べます。転移があればリンパ節はすべて切除します（腋窩郭清）。
腋窩郭清による腋窩のしびれ/感覚障害、リンパ浮腫は起こしにくくなります。

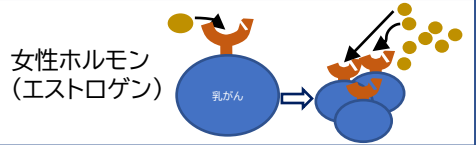

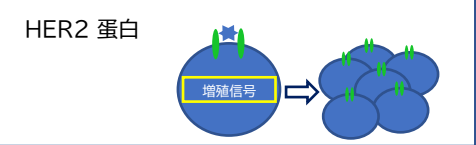
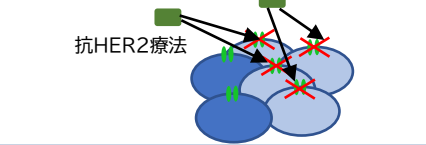


サブタイプ分類と術後補助薬物療法

乳がんは大きく3つのタイプの分けられ、それぞれのタイプに合わせて再発予防の薬物治療を行います。

ホルモン療法（内分泌療法）：女性ホルモン受容体を持つ乳がんのタイプでは、女性ホルモンががんの増殖に影響しています。女性ホルモンの分泌や働きを妨げることによって乳がんの増殖を抑える治療法です。

抗がん剤治療（化学療法）：がん細胞は正常細胞と異なり、際限なく増殖し続ける性質があります。抗がん剤療法は、細胞増殖を制御しているDNAに作用したり、がん細胞の分裂を邪魔したりすることで、がん細胞の増殖を抑える治療法です。

分子標的薬（抗HER2療法）：がんの増殖に関わっているHER2分子を標的に、その働きを邪魔する薬剤による治療法です。

	サブタイプ	治療
ホルモン受容体陽性	 <p>女性ホルモン (エストロゲン)</p> <p>乳がん</p>	 <p>閉経前</p> <p>閉経後</p>
HER2蛋白陽性	 <p>HER2 蛋白</p> <p>増殖信号</p>	 <p>抗HER2療法</p> <p>抗がん剤</p>
triple negative		 <p>抗がん剤</p>

放射線療法

乳房部分切除を行った場合やリンパ節転移が多かった場合に局所再発予防のため、放射線治療が行われます。放射線治療により、細胞の増殖を邪魔し、がん細胞を死滅させる治療法です。治療には約5週間かかりますが、通院治療が可能です。遠方で通うのが大変な場合には入院治療もできます。